

INFORMATION

プラネタリウム

今夜の星空／太陽系の発見

コペルニクスが描いた太陽系、そして現在知られている太陽系。この2つを迫力あるビジュアルとサウンドとともにご紹介します。

平 日	17:30
春休み平日	11:30 14:30 17:30
土 曜	11:30 14:30 17:30
日 祝 日	11:30 14:30

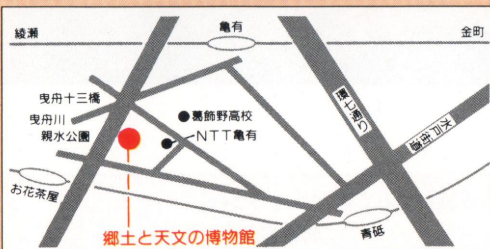
全天周映画

トゥ・ザ・リミット (4月より)

前人未到の極限に挑む。そのとき、体内では何が起ころのか。人間の素晴らしさを感動的に描いた、大型映像の名作中の名作です。

平 日	16:00 19:00
春休み平日	10:00 13:00 16:00 19:00
土 日 祝	10:00 13:00 16:00

交通のご案内



MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

土曜の夜だけの特別プログラム。最新鋭プラネタリウムによる満天の星空と心地良いサウンド、そして宇宙の話題が織りなすファンタジックなひとときをお楽しみください。

土 曜	19:00
3月6日・13日	4月10日・17日・24日
5月8日・15日・22日	6月5日・12日・19日(いずれも土)

■料金 (入館料を含みます)

大人400円／小・中学生150円／幼児50円

■休館日

月曜日 (祝日は開館) / 第2・4火曜日
7月14日(水)～16日(金)のプラネタリウム・全天周映画は番組入替のため休演。

■上映15分前までにこ来館ください。

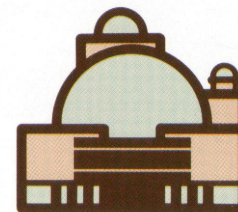
- 京成線 [お花茶屋] から8分
- JR常磐線 [亀有] から25分
- 京成バス (新小53亀有-新小岩) [博物館前] 下車すぐ
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。



PLANETARIUM

今夜の星空／太陽系の発見

Vol. 8 1993・春



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

葛飾区

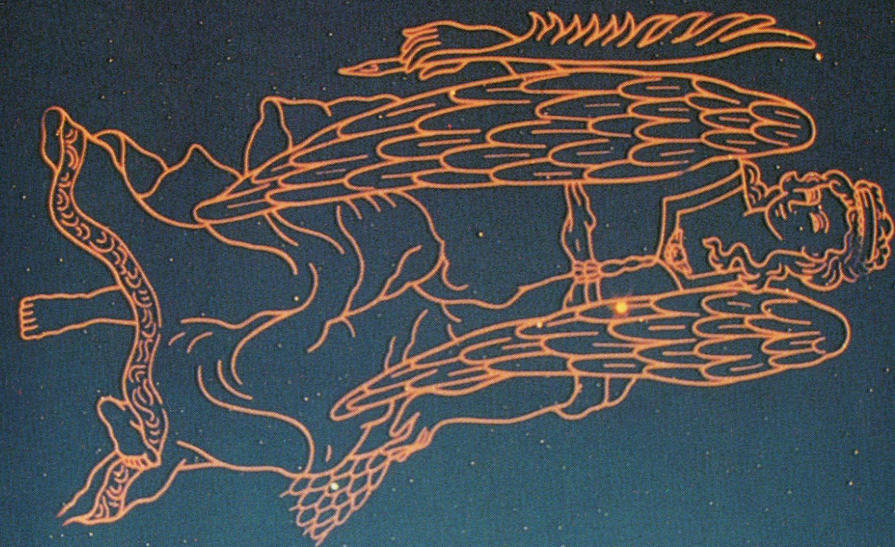


葛飾区郷土と天文の博物館

〒125 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101

1993年・春の星空より

きらり、乙女の真珠星。



■ 悲しみの女神

春の夜空に、おとめ座を探してみよう。南天で落ち着いた輝きを見せる1等星のスピカから、星々をYの字にたどってゆけばよい。普段、都会では意外と見つけにくい星座だが、今年は明るい木星を目印にすることができる。

ギリシャ神話では、大地と豊穡の女神デーメーテルの姿とされている。彼女の一人娘ペルセポネーは冥府の神ハデスに想いをよせられ、一年のうち四か月を冥府で過ごすねばならなくなった。娘がいない間、大地の女神は悲しみにくれ、そのために地上の草木は枯れ果ててしまう。つまり冬になるのだ。

麦の穂に輝くスピカは、その青白く清楚な輝きから、日本では真珠星と呼ばれている。

■ おとめ座銀河団

大きな望遠鏡でこのあたりを観測すると、無数の銀河が散らばっているのがわかる。総数三千個以上もの銀河が密集した、「おとめ座銀河団」だ。我々から最も近い、それでも六千万光年も彼方にある銀河団である。

我々の太陽系は、銀河系という星の大集団の片隅にある。しかし、この銀河系も、おとめ座銀河団の周辺に位置するありふれた銀河の一つに過ぎないという。

コペルニクスの宇宙観

天文学は古代から、人類の生活の一部として発達を遂げてきました。1年という単位、季節の変化、これらは皆、天空からのシグナルを上手に人類が受けとって生活に取り込まれてきました。

この天空の中で人類は、ひときわ目立った星を5つ発見しました。これらは、天空の他の星たちとは少し違った動きをしているのです。そのために、「惑う星」、つまり惑星と名付けられました。まるで、どこに行くのかわからなくて、ふらふらしている星のように見えたのでしょう。

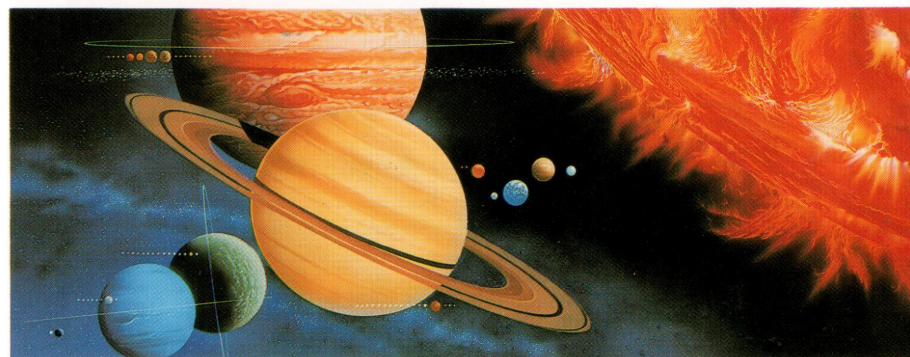
また、太陽・月・惑星、それから星座を作っている恒星と呼ばれる星たちが、地球のまわりをまわっていると考えました。これが、天動説です。

この古くからの考えを、ずっと人類は信じていました。神が地球を中心に宇宙を造ったと考えていたのです。

しかし、「この考えでは天空の星々の動きをうまく説明できない。」と悩んでいた教会の牧師がいました。ニコラス・コペルニクスというこの牧師は、教会の教えに逆らって、「天が動いているのではなくて、我々が動いているのだ。」という、地動説を唱えたのです。1543年のことです。

当時、教会に逆らうことは死を意味していたのですが、真実を曲げることはできないと、コペルニクスは説の公表に踏み切ったのです。この説で唱えられていた宇宙とは、現在我々が太陽系と呼んでいるものだったのです。

太陽系には、現在地球を含め9つの惑星があります。後半では、この太陽系を順にスペースプレーンに乗って、探検してみることにしましょう。



■もっと詳しく知りたい方は、こんな本を読んでみてはどうだろうか。

- | | |
|--------------------------|------------|
| ・『天文学史』 桜井邦明 | 朝倉書店 |
| ・『新・太陽系』 J・ピアティ他/伊藤・桜井監訳 | 培風館 |
| ・『コペルニクス』 ヤン・アダムチェフスキー | 恒文社 |
| ・『太陽系45億年の旅』 岩崎賀都彰/宮本正太郎 | 講談社ブルーバックス |